

山形県文化振興プラン

平成 28 年 3 月

山 形 県

「文化で紡ぐふるさと山形 輝く未来」の実現に向けて

本県には、開山 1,400 年となる出羽三山に代表される精神性豊かな文化が色濃く残っております。また、県内各地において黒川能や黒森歌舞伎、林家舞楽などの伝統芸能が守り受け継がれているとともに、県民主体の文化芸術活動が長年にわたり活発に行われているなど、山形の文化は国内外に誇れる宝であります。



このような中で、東日本大震災を契機に、人々のよりどころとしての文化の役割の重要性が再認識されました。

また、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの機会を活かし、我が国の文化を国内外に発信するとともに、文化を観光や産業の振興に活かしていく取組みが進められております。

こうした認識のもと、県内の文化芸術団体や有識者懇談会の御意見等をいただきながら、今後おおむね 10 年間の本県の文化芸術の振興施策の方向を示す「山形県文化振興プラン」を策定いたしました。本プランでは「文化で紡ぐふるさと山形 輝く未来」を基本目標とし、「親しむ」「育む」「活かす」の 3 つの施策展開方向から取り組むべき施策を掲げたところです。

特に、人口減少問題の克服や成長力の確保に向けた地方創生の動きを踏まえ、文化を通じた地域への愛着と誇りを醸成する取組みや、山形の優れた文化を観光や産業の振興、地域の活性化につなげる取組みなどを盛り込んでいきます。

今後、このプランに沿って、文化芸術の振興に資する事業を総合的かつ計画的に推進し、文化に期待される役割を最大限に発揮できるよう、県内の文化芸術団体はもとより県民の皆様と共に取り組み、県民一人ひとりが喜びと幸せを実感できる活力あふれる山形づくりを進めてまいりますので、県民の皆様への御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

平成 28 年 3 月

山形県知事 吉村美栄子

目 次

I	文化振興プラン策定の基本的考え方	1
II	文化芸術をめぐる状況	
1	海外の状況	3
2	国内の状況	4
3	山形県の状況	6
4	文化芸術団体等の意見	13
5	これまでの山形県の取組み	13
6	現在の文化振興プランの評価	14
III	文化の特性と役割及び山形県の文化の特性と課題	15
IV	基本理念及び基本目標	19
V	施策の展開方向	21
1	県民誰もが文化芸術に親しむ環境づくり(親しむ)	22
(1)	鑑賞機会の充実と多様な文化イベントの実施の促進	22
(2)	文化芸術活動への参加・創造の促進	24
2	山形の文化を活かした人づくりと山形の文化の向上(育む)	25
(1)	伝統文化の担い手や文化イベントを企画する人材の育成	25
(2)	幼少期からの文化芸術体験の充実と 文化に対する理解を深める環境づくり	26
(3)	文化芸術活動の交流等によるレベルの向上	27
3	山形の文化を活用した地域活性化(活かす)	28
(1)	山形の文化の発信を通じたブランド力の確立	28
(2)	文化による観光振興・産業振興・まちづくり	29
VI	文化振興プランの推進	30
【参 考】		
	・山形県文化振興懇談会委員名簿	32
	・山形県の文化芸術に対する県民意識〔平成26年度県政アンケート調査結果〕	33

I 文化振興プラン策定の基本的考え方

私たちのふるさと山形県は、色鮮やかな四季のもと、県土を貫いて流れる母なる川最上川や日本一の広さを誇るブナ林等の豊かな自然に恵まれ、いにしえから日本の基層を成す縄文文化や農耕文化が豊かに花開いた地域です。

美しい山や川に囲まれた雪深い風土の中で、忍耐強く真面目で、純朴な県民性が培われるとともに、出羽三山に代表される精神性豊かな文化や最上川に育まれた舟運文化、地域の誇りとなる伝統文化が先人から連綿と受け継がれ、文化を大切にする心が現代でも人々の中に息づいています。

このような豊かな文化的風土の中で、県内の各地域では県民主体の文化芸術活動が活発に行われています。

文化は、私たちに感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらすとともに、人々の豊かな感性や創造性を育みます。

また、人と人が互いに理解し尊重し合う基盤となり、経済の発展にも寄与するなど、社会全体を活性化させ、魅力ある地域づくりを推進する力があります。

東日本大震災は社会に大きな変化をもたらしましたが、地域の祭りや伝統文化が将来の希望や地域の絆を形づくる共有の価値として注目され、人々の心のよりどころとしての文化の重要性が再認識されました。

今、心の豊かさや人と人との絆が求められる時代を迎え、文化の意義、役割が重みを増しており、文化の価値が改めて見直されています。

こうした中、将来にわたっての「人口減少問題の克服」と「成長力の確保」に向け、平成27年10月に策定された「やまがた創生総合戦略」では、本県の特性を活かした取組みである「挑みの八策」の一つとして、文化を通して地域への愛着と誇りを醸成するとともに、文化を活かした産業の振興を図り、若者の県内定着・回帰につなげることであります。

先人が作り育んできた文化を守り高め、その力を最大限に発揮することにより、県民一人ひとりが喜びと幸せを実感できるふるさと山形の実現を力強く後押しするため、今後10年間を見通した本県の文化芸術振興の推進指針として、本プランを策定するものです。



最上川



羽黒山五重塔



杉沢比山（遊佐町）

Ⅱ 文化芸術をめぐる状況

1 海外の状況

(1) グローバル化の進展

交通や通信手段の発達により、様々な文化的背景を持った人々のグローバルな交流が活発化している中、ユネスコの世界文化遺産に代表されるように、人類共通の価値を求める動きが大きくなっています。

一方で、民俗芸能、民俗衣装、祭りなどの伝統的な文化や地域性豊かな食文化といった地域の自然や風土、歴史を象徴する文化が、自らのアイデンティティとして再評価されています。

世界文化遺産等の登録数（平成28年1月現在）（単位：件）

	世界	日本
世界文化遺産登録数	802	15
無形文化遺産登録数	336	22
創造都市ネットワーク加盟認定数	116	7

（出典：文部科学省、文化庁ホームページ）

日本の世界文化遺産等の例（平成28年1月現在）

世界文化遺産	○富岡製糸場と絹産業遺産群（平成26年記載） ○明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼，造船，石炭産業（平成27年記載）
無形文化遺産	○和食：日本人の伝統的な食文化（平成25年登録） ○和紙：日本の手漉和紙技術 【石州半紙、本美濃紙、細川紙】（平成26年登録）
創造都市ネットワーク 加盟認定都市	○鶴岡市（食文化） ○篠山市（クラフト&フォークアート）

（出典：文部科学省、文化庁ホームページ）

(2) ICTの進展によるコミュニケーションの拡大

インターネットやSNSの進展を背景に、マンガ、アニメーションをはじめとしたメディア芸術や音楽、美術などの様々な文化芸術が、言語や生活習慣等の異なる人々をつなぎ、相互理解を促す共通のコミュニケーションツールとしての役割を担っています。

2 国内の状況

(1) 人口の減少を克服し地方の成長力を確保する地方創生の動き

人口の減少が進行する中で、地方が、それぞれの特性を活かした持続的な社会を形成するため、人口減少問題の克服と地方の成長力の確保に向けた取組みが政府・地方を挙げて進められています。

政府においては、国民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進するため「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地域の歴史・町並み・文化・芸術・スポーツ等による地域活性化やふるさとに対する誇りを高める施策を推進することとしています。

地方においては、地域の実情に応じた地方創生総合戦略を策定し、特に文化面では、地域への愛着と誇りの醸成による若者の定住回帰の促進や地域の文化的資源を活用した交流人口の拡大や移住促進など、地域特性に即した取組みが展開されています。

(2) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、文化庁においては、地方自治体と連携して、大会以降も多様な文化芸術活動の発展や有形・無形の文化財の着実な保存・活用を目指すため、文化プログラムを2016年のリオデジャネイロ大会後から日本全国で展開するとしています。

また、各地域にある有形・無形の文化財をストーリーでつなげたものを「日本遺産^(※)」として文化庁が認定し、観光振興等を通じた地域活性化を図る取組みが行われています。

(※) 日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。

有形・無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外へ戦略的に発信していくことにより、観光振興等を通じた地域の活性化を図ることを目的としている。

日本遺産の例

- ・ 灯り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～（石川県）
夏の間、約 200 地区で行われるキリコと呼ばれる山車が町を巡る
灯籠神事
- ・ 日本茶 800 年の歴史散歩（京都府）
茶道、茶問屋、茶まつりなどのお茶文化と茶畑などの美しい景観
- ・ かかあ天下 ～ぐんまの絹物語～（群馬県）
日本独特の繊細なものづくり文化である絹産業と家計を支える女性像

(3) 東日本大震災の発生

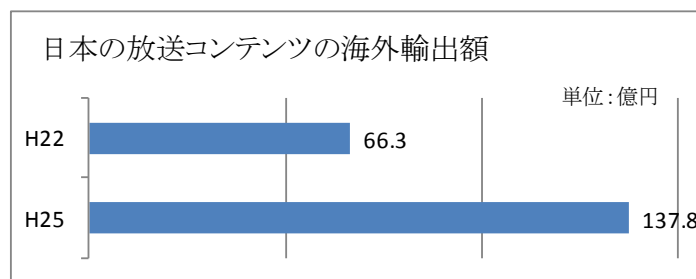
東日本大震災を契機に、地域コミュニティや家族、仲間との絆の大切さが改めて見直されています。

被災地の復興に取り組む上で、地域の祭りや伝統文化が、将来への希望や地域の絆を形づくる共有の価値として再認識されています。

(4) 文化芸術の分野の拡大と世界への発信

中学校においてダンスが必修化されたほか、若者を中心としてアニメーションやマンガ、デジタル媒体を活用したゲーム等メディア芸術が普及するなど、文化芸術の分野が拡大しています。

また、政府におけるクール・ジャパン政策^(※)では、メディア芸術をはじめ、伝統文化、茶道や華道などの生活文化、食文化等様々な日本の文化を世界へ発信することで、海外における日本の文化の認知度を高め、市場の開拓につなげる取組みが進められています。



(出典：総務省「(平成 26 年 11 月) 放送コンテンツの海外展望に関する現状分析」)

(※) クール・ジャパン政策

日本の伝統文化や国際的に評価の高い日本のアニメーション、ドラマ等をはじめとしたメディア芸術などの日本の文化、自動車や家電、電子機器等産業分野の世界への輸出拡大などを企画・立案する政府の政策

3 山形県の状況

(1) 質の高い文化芸術活動

風土や歴史に根ざし、地域の誇りとなる伝統文化が県内各地域で傳承されているほか、美術や音楽など幅広い分野で質の高い活動が行なわれています。

【県内の質の高い文化芸術活動等の例】

催事・団体名等	内容
黒川能	鶴岡市黒川地区において、どの能楽の流派にも属さず 500 年もの間受け継がれてきた郷土芸能
新庄まつりの山車行事	歌舞伎や歴史物語を題材に趣向を凝らした 20 台の絢爛豪華な山車が市内を巡行する 260 年を迎える伝統行事
県民芸術祭	50 回を超える開催数を誇り、舞台芸術や美術展、茶道、華道など県内の様々なジャンルの文化団体が連携し開催する文化祭
山形交響楽団	発足して以来 40 年以上、学校等で児童生徒に質の高い音楽を提供するスクールコンサートなど、地域に根ざした取り組みを行っている東北初のプロオーケストラ
山形美術館	吉野石膏コレクションや長谷川コレクションなど国内外の一流作品を所蔵・展示する、累計入館者 500 万人を超える本県の中核的な美術館



新庄まつりの山車行事



山形交響楽団

(2) 特色ある文化イベントの創出

大学生や商工会等が地域住民とともに新たな文化イベントを企画・運営し、地域活性化に取り組む事例が出てきています。

また、県民がレベルの高い演奏を間近で聴くことができるとともに、国内外の音楽家と交流できる機会を創出する国際的なイベントが行われています。

【県内の特色ある文化イベント例】

開催地域	催事名	内容
山形市	みちのおくの 芸術祭 山形ビエンナーレ	東北芸術工科大学の主催により、2年に一度ジャンルを超えた芸術家たちが集う芸術祭
大蔵村	ほたる火 コンサート	日本の棚田百選の認定を受けた四ヶ村の棚田を会場に、幻想的なろうそくの灯火の中で開催される音楽祭
鶴岡市	鶴岡音楽祭	作曲家・中田喜直氏の名曲「雪の降る街を」にちなみ開催され、地元の学校や音楽団体、有名ゲストなど、参加者全員による合唱をはじめ多彩なプログラムで構成される音楽祭

【県内の国際的な文化イベント例】

開催地域	催事名	内容
山形市	山形国際 ドキュメンタリー 映画祭	世界のドキュメンタリー映画のコンペティションや特集プログラムの上映など様々な趣向と工夫を凝らした2年に一度の国際映画祭
	アフィニス 夏の音楽祭	山形交響楽団と海外の一流アーティストによるコンサートやワークショップ等を内容に2年に一度開催される国際音楽祭

(3) 地域の文化を活かした取組みの展開

①文化財を活用した取組み

国指定重要文化財として大正の古き良き時代の薫りを今に伝える文翔館を、郷土の歴史・文化の学習や県民の文化芸術の鑑賞・発表の場、山形を代表する観光資源として有効活用しています。

また、地域のアイデンティティともいえる有形・無形の文化財を保存・活用する取組みについて、「未来に伝える山形の宝^(※)」として登録・推進することで、文化財の保護を図るとともに、郷土に対する誇りと愛着を育み、地域活性化や新たな交流の拡大につなげていく取組みを進めています。



山形県郷土館 文翔館

(※) 「未来に伝える山形の宝」登録制度

歴史・文化・自然など共通するテーマで結び付いた複数の文化財により構成されており、文化財の保存と、地域（歴史的・文化的・自然的な結びつきを有する一定のエリア）における文化財の活用が一体となった取組みを登録する制度

○「未来に伝える山形の宝」登録例

- ・風水にふれる里 最上川舟運と清水城址（大蔵村）

江戸初期に最上川舟運の中心だった酒田～清水間にのこる、舟運により発展した町並みや清水城跡などの歴史的文化遺産等を守り伝えるもの。

- ・直江石堤と米沢市芳泉町の生垣・町並み景観（米沢市）

直江石堤決壊時に米沢城下が大洪水に見舞われるのを未然に防ぐ役割を果たしてきた芳泉町の石垣や川除堤防等を、先人の歴史を物語る遺産として守り伝えるもの。

- ・人をつなぎ、文化をつむぐ羽州街道 檜下宿 金山越（上山市）

江戸時代に東北 13 藩が参勤交代の折に立ち寄り栄えた檜下宿に今も大切に保存されている往時の町並み等を守り伝えるもの。



檜下宿

②伝統工芸・食文化を活用した取組み

本県の優れた技術に裏打ちされた伝統工芸や豊かな食文化等に着目し、伝統に新たな付加価値をつけて産業振興に活かす取組みや地域の食文化を世界に情報発信する取組みが行なわれています。例えば、本県出身の国際的なデザイナーと本県の伝統技術が融合して制作されたティーポットは、現代的で高品位な「和」が感じられる極めて完成度が高いデザインとして「グッドデザイン賞」を受賞するなど高い評価を受けています。

また、鶴岡の多様な食文化や在来作物の研究と活用に関わる活動などが評価され、食文化としては日本で初めて同市がユネスコの「創造都市ネットワーク」に加盟認定されました。



山形鑄物

③その他の文化的資源を活用した取組み

古くから崇拜の対象とされてきた神社仏閣などの歴史的価値のある宝物の公開や、精神文化と修験道を学ぶ山伏修行体験など、文化を観光振興につなげる工夫を凝らした取組みが行なわれています。

また、県内4地域にフィルム・コミッション^(※)が設置され、映画やテレビドラマ等のロケーション撮影の誘致が活発に行われるとともに、ロケセットの公開、ロケ地マップの作成などロケが行われた場所を観光に活かす取組みが行われています。

(4) 県民の文化芸術活動等について

①県民の活発な文化芸術活動

本県には、半世紀を超えて開催されてきた、県内の文化芸術団体が日頃の活動の成果を発表する「県民芸術祭」があり、美術展や演劇、オーケストラの演奏、舞踊発表会など文化芸術の分野を越えて競い合う全国的にも珍しい取組みが行なわれています。また、県民芸術祭に合わせて、市町村単位の芸術祭も8割の市町村で行なわれています。

さらには、県が全国に先駆けて創設した地域課題の解決や文化活動などの公益活動を支援する「やまがた社会貢献基金」を活用し、県民協働で地域における伝統芸能の保存・継承活動などが行なわれています。

②県内における文化芸術の活動主体の減少等

平成26年度に実施したアンケート調査によると、民俗芸能に取り組んだ人の割合は平成16年度調査と比較して約6割減少しています。また、華道や茶道などの生活文化に取り組んだ人の割合も同様に約5割減少するなど、地域の伝統文化の担い手や文化活動に取り組む人が減少しています。

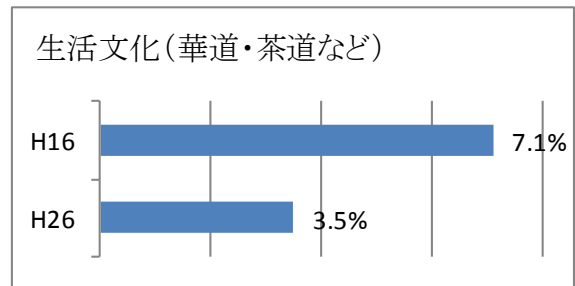
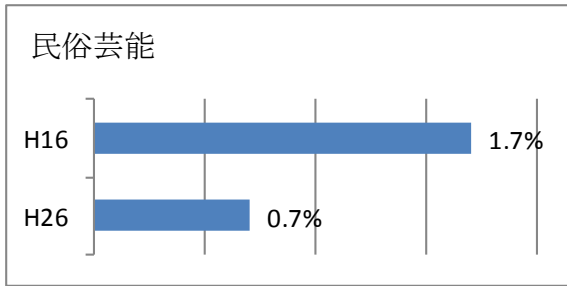
また、少子化に伴う生徒数の減少により、県内の高等学校における文化部員数や文化部数も減少しています。

更には、山形県芸術文化協会の会員数がこの10年で大きく減少しており、会員からは、高齢化による活動の困難さや、個々の団体の存続を危惧する声も聞かれています。

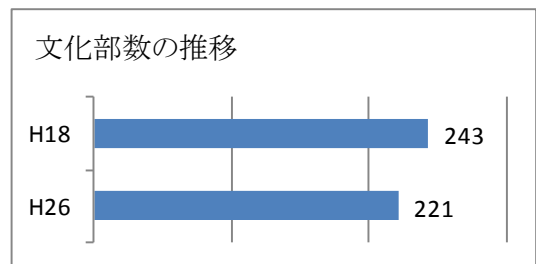
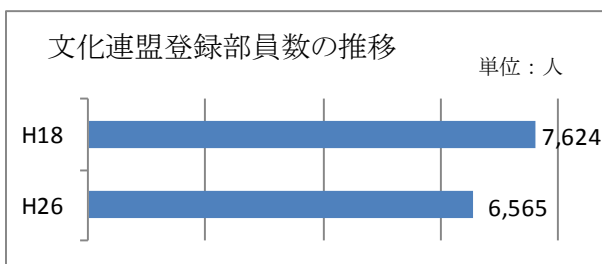
(※) フィルム・コミッション

映画やテレビドラマ、CMなどのロケーション撮影を誘致し、また、実際のロケをスムーズに進めるために、地域において設置されるもの

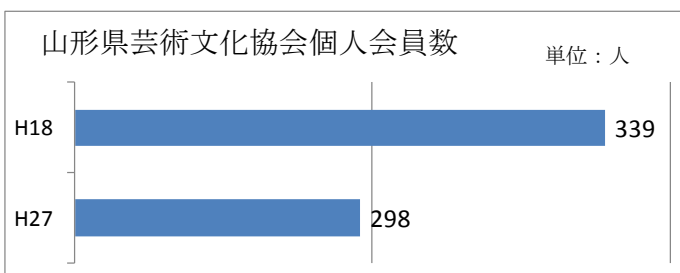
この1年間に活動した文化芸術活動の分野



(出典：平成16年度、平成26年度県政アンケート)



(出典：山形県高等学校文化連盟)

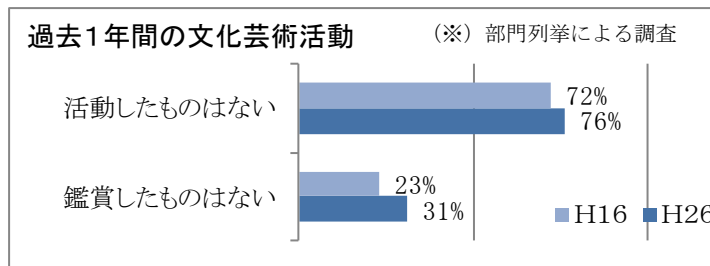


(出典：山形県芸術文化協会)

③ 県民の文化芸術活動と鑑賞の状況

県内においては、過去1年間に音楽や美術などの文化芸術活動を行わなかった^(※)とする人が、平成16年度、平成26年度いずれにおいても7割を超えています。

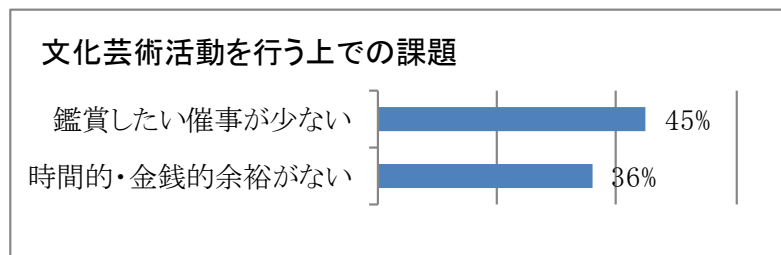
また、過去1年間に映画や絵画、音楽、演劇などの文化芸術鑑賞を行わなかった^(※)とする人の割合は、平成16年度調査の23%に対し、平成26年度調査で31%と拡大しています。



(出典：平成16年度、26年度県政アンケート)

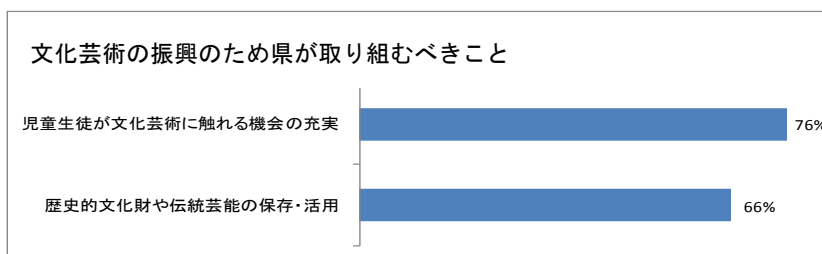
④文化芸術活動と鑑賞にかかる県民の意識

文化芸術の鑑賞や活動などを行う上での課題については、「鑑賞してみたいと思うイベント・催事が少ない」という意見が最も多く、次いで「文化芸術鑑賞や活動を行うための時間的又は金銭的余裕があまりない」という意見が多くなっています。



(出典：平成26年度県政アンケート)

文化芸術の振興のため県が取り組むべきこととして、「児童生徒が文化芸術に触れる機会の充実拡大」という意見が最も多く、次いで「地域の歴史的文化財や伝統芸能の保存・活用」という意見が多くなっています。



(出典：平成26年度県政アンケート)

※県政アンケート調査結果詳細は巻末に掲載

⑤障がい者の文化芸術活動

在宅や施設等において多くの障がい者が文化芸術活動に取り組んでいますが、その作品は一般県民の目に触れる機会はほとんどありません。

また、創作活動や著作権等に関する相談支援を行える人材が不足しているなど、障がい者の文化芸術活動を推進する環境が整っていない状況にあります。

4 文化芸術団体等の意見

文化芸術団体等からは次のようなことが求められています。

- ・子どものころに褒められた経験は大人になっても喜びとして残り、活動意欲の高まりにつながるため、県内の文化施設等を活用した、幼少期から文化芸術活動に参加する機会や活動発表の場の創出
- ・企業の若い力を地域の活力とするため、企業における地域の文化芸術活動への参画
- ・既存の芸術分野と、若者を中心に人気の高いダンスなどの新しい分野とが連携した発表の場を創出するなど、相互交流を促進し、文化芸術団体の活動の活性化を図るための取組み

5 これまでの山形県の取組み

県民が日頃の文化芸術活動を発表し、観る人と感動を共有する場として、「県民芸術祭」、「ふるさと芸能のつどい」、「少年少女合唱祭」、「トップコンサート」、「置賜こども芸術祭」等を開催するとともに、県民自らが取り組む美術等文化芸術活動の身近な発表とその鑑賞機会を提供する場として「山形県芸文美術館」の運営を支援しています。

また、県民が優れた文化芸術に触れる機会の充実のため、山形美術館はじめ県内の主要な博物館・美術館の企画事業を共催で行うとともに、県民に質の高い音楽を提供するため山形交響楽団の演奏会事業への支援を行っています。更に、子どもを対象とした参加型のワークショップによる次世代の文化を担う人材育成や、地域の文化的資源を活用した県内外への良質な文化芸術鑑賞機会の提供による交流人口の拡大に取り組んでいます。

更に、山形の良質な文化と物産を全国に発信するため、山形交響楽団の東京・大阪での公演を支援しています。

また、学校においては、教科指導の充実を中心とした文化芸術活動を推進し、鑑賞及び表現などの幅広い活動を行っています。また、一流の文化芸術に触れる機会を通して、児童生徒の文化芸術への関心と理解を深める取組みを行っています。



山形美術館



置賜子ども芸術祭



アフィニス夏の音楽祭

6 現在の文化振興プランの評価

平成 18 年 3 月に策定した「やまがた文化振興プラン」では、「文化で育む子どもの夢 文化で創るやまがたの魅力」を基本目標とし、社会貢献基金制度を創設し、県民主体による地域の文化芸術活動を活発化させるとともに、企業のメセナ活動を推進しました。更に、東北の文化施設等の特色あるイベントについて広域的かつ一体的な情報発信を行うため「東北文化の日」を創設するとともに、子どもたちに地域の文化的資源に身近に触れてもらうため、夏休み期間中に文化施設等を巡るスタンプラリーを実施するなど、県内文化施設の連携・周遊化を図りました。

また、現在のプランでは、文化による人づくりやにぎわいの創出などを施策として進めていますが、文化芸術団体等の意見などを踏まえ、以下の取組みが必要であると考えます。

少子高齢化に伴い人口減少が進む中、地域の伝統文化の担い手や指導者が不足し、地域の伝統文化の次世代への継承が困難となっているため、長期的な視野に立った人材育成のための取組みを進める必要があります。

また、幼少期から地域の文化に親しむ機会を新たに創出することで、子どもたちの郷土愛を醸成し、人口減少の克服につなげていく必要があります。

更に、山形の文化を国内外からの誘客につなげるため、観光・産業分野との連携のもと文化的資源を活かした取組みを推進し、交流人口を拡大する必要があります。

Ⅲ 文化の特性と役割及び山形県の文化の特性と課題

グローバル化やICTの進展、人口の減少や東日本大震災の発生など社会経済情勢の変化等により、文化が本来持っている特性が改めて見直され、文化を人づくりや地域づくりに活用していくことが求められています。

こうしたことから、地方創生などの今日的な課題も踏まえ、以下の6つを文化の持つ特性と役割として捉え、本県の文化特性や文化芸術活動の現状を踏まえた文化振興の課題を明確にしました。

1 文化で地域への愛着と誇りを高める

文化には、人々の地域を愛する心と地域に対する誇りを育み、自分の生まれ育った地域を大切に思う心を涵養する力があります。

本県の文化の特性

開山 1400 年を誇る出羽三山に代表される精神性豊かな文化、最上川によってもたらされた舟運文化、自然の恵みに育まれた農耕文化が残されています。

課題

- ・ 伝統文化の担い手、指導者の育成
若者世代が地域の優れた伝統文化の保存・継承活動に参画する仕組みづくりや、伝統文化の伝承を牽引する指導者を育成する必要があります。
- ・ 地域の文化的資源に触れる機会の創出
地域の文化施設の利用促進、行事、祭り、催事等に参加しやすい環境を整える必要があります。

2 文化で生き生きとした暮らしを築く

文化には、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらす、ゆとりと潤いを実感する心豊かな生活を実現させる力があります。

本県の文化の特性

齋藤茂吉や藤沢周平、土門拳などの日本を代表する文化人を輩出するとともに、国内外に誇る世界的な名画を有する山形美術館や、40年以上の歴史を誇り質の高い演奏で全国的にも評価されている山形交響楽団など、暮らしに文化が息づいています。

課題

- ・暮らしの中で文化を実感できる仕組みづくり
日頃から、文化芸術に親しみ、身近に感じることでできる環境を整える必要があります。
- ・文化芸術活動への参加の促進
県民が参加したいと思う文化イベント等の実施や県民が文化関連情報を気軽に入手できる環境を整える必要があります。

3 文化で人づくりを支える

文化には、豊かな人間性を涵養し、創造力と感性を育てる力があります。

本県の文化の特性

子どもたちに優れた芸術に触れる機会を提供するため山形交響楽団が40年以上にわたり継続しているスクールコンサートや地域の伝統文化を伝承する活動を推進するふるさと塾の取組みなど、山形の未来を担う子どもたちの感性を育む取組みが行われています。

課題

- ・幼少期から文化に親しむ機会の創出
子どもの成長段階に応じて地域の誇る優れた文化芸術に親しむ機会を創り出していく必要があります。
- ・活動意欲を高める取組み
文化芸術にかかる日頃の取組みの成果を発表する機会を充実させるとともに、優れた活動に対し顕彰を行うなど、県民の主体的な文化芸術活動を促す必要があります。

4 文化でアイデンティティを形成する

文化には、人々が地域の良さを知り、地域への自信と誇りを高め、人々に共通する精神的なよりどころとなる力があります。

本県の文化の特性

黒川能、黒森歌舞伎、林家舞楽、各地に残る獅子舞などの民俗芸能が守り伝えられているほか、地域の祭りや伝統行事など地域の伝統文化の継承が図られています。

課題

- ・地域の伝統文化等に触れる機会の創出
地域に根ざした伝統文化等に触れる機会を創出し、伝統文化等の素晴らしさを伝える必要があります。
- ・地域の文化を学び探求する取組み
地域の伝統文化や個性ある文化に関する知識を習得し、理解を深める取組みが必要です。



黒川能



林家舞楽

5 文化で人と人とを結ぶ

文化には、地域の絆を深めるとともに、国境や言語、民族を越えて人々の心をつなぐ力があります。

本県の文化の特性

新庄まつりなど地域の行事を共に作りあげ、地域の絆を深めるとともに、アフィニス夏の音楽祭など世界から集まる人々との交流により多様な文

化の相互理解を深める取組みが行われています。

課題

- ・多様な人々の交流機会の創出
国内外の文化イベント等への参加を通して、多くの人が交流する取組みが必要です。

6 文化で地域を元気にする

文化には、地域のブランド力を高め、高い付加価値を生み出し、観光振興や産業振興、まちづくりを進める力があります。

本県の文化の特性

来場者が100万人を超える本県を代表する夏祭りである「花笠まつり」や直径6メートルの大鍋で芋煮がふるまわれる秋の一大イベント「日本一芋煮会フェスティバル」、伝統的な技法と匠の技をもって作られてきた伝統工芸など地域の特性を活かした魅力あふれる様々な文化が創出されています。

課題

- ・山形の文化の情報発信力の強化
山形の文化の素晴らしさを効果的に発信することで、山形の文化のブランド力を確立することが必要です。
- ・山形の文化を活かした観光振興、産業振興、まちづくり
山形の文化的資源を効果的に活用し、地域の振興につなげていくことが必要です。

IV 基本理念及び基本目標

社会経済情勢はめまぐるしく変化し、特に人口の減少は各分野に様々な影響を与えています。労働力不足による産業活力の低下や、地域コミュニティの弱体化による地域で支え合う力の低下のほか、これまで培われ、伝えられてきた伝統文化の衰退など、文化面にも影響が及んでいます。

一方、文化が本来持っている特性が改めて見直され、その価値が高まっています。

さらに、海外から日本の文化やライフスタイルに注目が集まっており、日本の文化を発信することで、更なる交流人口の拡大が期待されます。

ここ山形の精神性豊かな文化には、自然への畏敬の念や里山の美しい原風景、四季を感じられる豊かな食など日本の本来の良さを思い起こさせる魅力があります。

これからの県づくりにあたっては、地方創生など今日的な課題を解決するためにも、国内外に誇る豊かな山形の文化を特に人づくりや地域づくりに活かしていくことが重要です。

そのために、本県の文化振興の基本理念を次のとおり示します。



四ヶ村の棚田



芋煮



さくらんぼ

基本理念

山形県には出羽三山などの自然・風土・歴史に培われた国内外に誇れる精神性豊かな文化や最上川により育まれた舟運文化が受け継がれています。

地域に根ざし、受け継がれてきた文化は、山形県民としてのアイデンティティであり、たとえふるさと山形を離れていても、心の支柱、県民同士の絆となるものです。

県民が郷土への愛着と誇りを持って生き活きと暮らし、世界中の人々が訪れたい「日本」が息づく文化のくに山形をつくります。

基本理念を踏まえ、本プランの基本目標を次のとおりとします。

文化で紡ぐふるさと山形 輝く未来

V 施策の展開方向

基本目標を実現するため、以下の3つを施策の柱とし、文化芸術の振興に取り組んでいきます。

県民誰もが文化芸術に親しむ環境づくり（親しむ）

多くの県民が優れた文化芸術を身近に鑑賞したり、いつでもどこでも文化芸術活動に取り組むことができる環境づくりを進めていきます。

山形の文化を活かした人づくりと山形の文化の向上（育む）

地域に根ざした伝統文化を次世代へ継承するための担い手や指導者の育成、幼少期から山形の文化を理解する取組みを通じた人づくりを進めるとともに、山形の文化芸術レベルの向上を目指します。

山形の文化を活用した地域活性化（活かす）

山形の特色ある文化を高め、その魅力を効果的に国内外に発信し、ブランド力の確立を図り、山形の文化の積極的な活用を通じて、観光振興や産業振興、まちづくりを推進します。

1 県民誰もが文化芸術に親しむ環境づくり（親しむ）

（1）鑑賞機会の充実と多様な文化イベントの実施の促進

①県民のニーズに応じた文化イベントの実施の促進

県内の文化施設等における、県民が鑑賞したい、参加したいと思う魅力ある事業の企画や文化イベントの実施を促進します。

②県立博物館の機能の充実、強化と美術館・博物館・図書館など文化施設等の連携による活用の促進

魅力ある企画展の開催、相談体制の充実など県立博物館の機能強化を図ります。

また、県内の文化施設等における情報の共同発信、広域循環型の展覧会の実施など文化施設間の連携を促進し、文化施設等の有効な活用につなげていきます。

③県民が様々な文化芸術に身近に触れることができる機会の充実

県内各地で行われる文化イベントや活動団体等の情報発信を促進するとともに、地域の伝統文化や芸術に触れる機会の充実を図るため、文化芸術団体や企業等によるイベントの開催等の取組みを推進します。



伝国の杜 こども狂言クラブ



街かどコンサート

〈主な取組み例〉

① 県民のニーズに応じた文化イベントの実施の促進

- 山形駅西口拠点施設^(※)等県内文化施設における国内外を代表するアーティストの公演等を鑑賞する機会の創出促進
- 美術館・博物館等県内文化施設の魅力を発信する自主事業への支援
- 神社仏閣や県内文化施設等の未公開の文化的資源の公開の促進
- 文化庁補助事業等の活用による多様な文化芸術鑑賞機会の創出

② 県立博物館の機能の充実、強化と美術館・博物館・図書館など文化施設等の連携による活用の促進

- 県立博物館における魅力ある企画展の開催、相談体制の充実
- 県内の文化施設等が連携した入場料割引やプレゼント提供など県民の鑑賞を促す取組みの促進
- 県民の多様な文化芸術活動の発表・鑑賞・創造の場としての県内文化施設等の活用促進

③ 県民が様々な文化芸術に身近に触れることができる機会の充実

- ホームページ等による県内文化イベント等についての県内外への情報発信の強化
- ふるさと芸能のつどいやこども郷土芸能芸術まつりの実施など地域の伝統文化を鑑賞する機会の充実
- 県立図書館における郷土の貴重な資料のデジタル化とホームページ等での公開等情報発信
- 企業による冠コンサートの開催や、県民の鑑賞機会拡大への支援
- 山形交響楽団を活用した県民参加のコンサートの開催

(※) 山形駅西口拠点施設

山形県では、大ホールを有する文化施設を中核に、山形の魅力を発信する施設や防災機能等を併せ持つ「複合文化施設」となる「山形駅西口拠点施設」を、JR山形駅西口に整備している。

(2) 文化芸術活動への参加・創造の促進

① 県民の文化芸術活動への参加・創造の促進

県民誰もが文化芸術活動に参加できる環境づくりを行うとともに、創作活動への主体的な取組みを促進します。

また、障がいの有無や年齢等個人の属性や置かれた状況に関わらず文化芸術活動に取り組める環境づくりを推進します。

② 企業等による文化芸術活動の促進

企業等による文化イベントの実施や地域の文化芸術活動への参加等を促進します。

〈主な取組み例〉

① 県民の文化芸術活動への参加・創造の促進

- 県民芸術祭をはじめ、県民主体による文化芸術に関するイベントの開催支援
- 地域における伝統文化の伝承活動や音楽イベントなど、地域の様々な文化行事などへの県民参加の促進
- 障がい者の芸術活動についてホームページや展示会等を通じた幅広い情報発信を行う「芸術活動推進センター^(※)」の設置とその取組みへの支援【新規】
- 文化芸術団体が実施する先進的・創造的な発表事業等への助成
- 文化芸術団体による劇や合唱等の創作公演の実施の推進

② 企業等による文化芸術活動の促進

- 企業等によるダンスイベント等文化イベントの開催、地域の文化行事等への参加促進や県民の文化芸術活動への支援
- 「やまがた社会貢献基金」による文化芸術活動への支援

(※) 芸術活動推進センター

障がい者の芸術作品を幅広く県民に情報発信する拠点

2 山形の文化を活かした人づくりと山形の文化の向上（育む）

（1）伝統文化の担い手や文化イベントを企画する人材の育成

①伝統文化の担い手育成等地域の文化を継承するための活動支援

地域で取り組まれている郷土芸能等の発表の場の創出、伝統文化の担い手や指導者の育成等地域に根ざした文化を次世代に継承するための取り組みを推進します。

②文化芸術活動や施設の運営を支える人材の育成

県内の大学等と文化施設や行政が連携し、大学教育等において、文化イベントの機会を活用した公演・展示等の企画・開催など実践的能力の向上を図り、文化芸術活動や施設の運営を支える感性豊かな人材を育成します。

〈主な取り組み例〉

①伝統文化の担い手育成等地域の文化を継承するための活動支援

- ふるさと芸能のつどいやこども郷土芸能芸術まつりの実施など地域の伝統文化に参加し、発表する機会の充実
- 地域に伝わる伝統文化の保存継承活動を支援する「伝統芸能育成事業（子ども伝承活動ふるさと塾）」の実施や社会貢献基金による伝統芸能の保存継承活動への支援
- 伝統芸能等の指導者研修会などを通じたネットワークの形成の促進や、学校での公演など担い手を育成するための取り組みの推進
- 能舞台を活用した、狂言師指導による能や狂言などの日本の伝統文化に親しむ「こども狂言クラブ」への支援

②文化芸術活動や施設の運営を支える人材の育成

- 県内大学等と連携した、文化施設や地域における文化事業の企画等を行う人材の育成
- 全国公立文化施設協会が実施するアートマネジメント研修等人材育成事業の活用推進

(2) 幼少期からの文化芸術体験の充実と文化に対する理解を深める環境づくり

① 幼少期において優れた山形の文化に親しむ機会の充実

学校と地域の文化芸術団体の連携等による地域の文化を子どもたちに伝える活動等を通して、子どもたちの豊かな創造力、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、子どもたちが文化芸術に親しむ取組みを推進します。

② 暮らしの中で文化を楽しむ環境づくり

身近な場所での文化芸術活動の鑑賞・発表の機会を増やし、日常の暮らしの中で、音楽や絵画等の文化芸術に親しむ環境づくりを推進します。

〈主な取組み例〉

① 幼少期において優れた山形の文化に親しむ機会の充実

- 学校の教育活動として地域の伝統文化行事への児童生徒の参加促進
- 地域において子どもたちが様々な文化芸術を体験・実践できる総合型文化クラブの創設【新規】
- 山形交響楽団や山形美術館など県内文化施設における、子どもなど対象者に応じた文化芸術体験プログラムの実施支援【新規】
- 県民の文化芸術活動への理解を深め、参加意欲を高める県民芸術祭の開催
- 文化芸術団体が学校等を訪問して児童生徒に文化芸術活動の指導を行う取組みの促進

② 暮らしの中で文化を楽しむ環境づくり

- 病院、銀行、公共施設やスポーツイベント等を活用したコンサートや展覧会の開催など、街なかや暮らしの中で文化に触れ、楽しむことができる機会の創出
- 公民館等身近な場所を活用した文化芸術活動を発表する機会の創出

(3) 文化芸術活動の交流等によるレベルの向上

①県内外の文化芸術団体等との交流機会の充実

文化芸術レベルの向上や活動の活性化を図るため、県内で活動する文化芸術団体等が県内外の団体と交流する機会を増やしていきます。

②山形の文化を知り、学ぶ機会の充実

地域の文化施設や公民館等において、県民が郷土の歴史・文化を学び、理解を深めるための取組みを推進します。

③顕彰の実施

文化芸術及び学術等について顕著な成果を収めた個人や団体の功績をたたえ表彰を行い、本県の文化芸術活動の更なるレベルの向上を図ります。

〈主な取組み例〉

①県内外の文化芸術団体等との交流機会の充実

- 国民文化祭への参加促進や県民芸術祭の開催などによる県内外の文化芸術団体との交流機会の充実
- 新しい文化芸術（ヒップホップダンス、メディア芸術等）の振興や多様な文化芸術団体との交流促進【新規】
- 次代の文化芸術を担う高校生の文化芸術活動の活性化

②山形の文化を知り、学ぶ機会の充実

- 「山形学」をはじめ地域の文化を学び、理解を深める講座の開催と参加の促進

③顕彰の実施

- 齋藤茂吉文化賞、齋藤茂吉短歌文学賞及び齋藤茂吉ジュニア短歌コンクールなど優れた活動者の顕彰

3 山形の文化を活用した地域活性化（活かす）

（1）山形の文化の発信を通じたブランド力の確立

山形の精神性豊かな文化をはじめ、個性あふれる山形の文化を様々な機会を通して国内外に発信することにより、山形の文化のブランド力確立を推進します。

〈主な取組み例〉

- 観光や食、地域づくりなどの様々な機会を活用した「縄文の女神」、「出羽三山」、「黒川能」等に代表される精神性豊かな山形の文化の積極的な発信
- ユネスコ無形文化遺産等の保護と海外への情報発信
- アフィニス夏の音楽祭や山形国際ドキュメンタリー映画祭等のイベントを通じた山形の文化の国内外への発信
- 県内の文化的資源を活用した国内外の映画やテレビ番組の撮影の誘致
- 海外における山形の食文化の発信と農産物、加工食品等のPRの実施



国宝 縄文の女神

(2) 文化による観光振興・産業振興・まちづくり

①山形の文化的資源を活用した観光振興、産業振興

山形の優れた文化を実感できるツアーなど、山形の文化的資源の積極的な活用による、インバウンドを含めた観光振興と山形のものづくり等を活かした産業振興を推進します。

②山形の文化を活かしたまちづくり

文化的資源や地域に根ざした文化芸術活動等を、まちの魅力として高め、まちづくりへの活用を推進します。

〈主な取組み例〉

①山形の文化的資源を活用した観光振興、産業振興

- 山形の文化的資源（食文化、伝統工芸、文化財、景観等）を通して山形の文化を実感できるツアーの造成等の促進
- 映画、アニメーション、ゲーム等で取り上げられた文化的資源（場所、人物、もの）を活用した企画展の開催やツアーの造成等の促進
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における文化関連イベントへの山形の文化の参画等を通じた国内外からの誘客の推進【新規】
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるオリンピック等関連施設、調度品等への山形の伝統工芸品等の活用の促進【新規】
- 中高生による留学生等への英語での観光ガイドの実践など地域文化を発信する取組みの推進
- 首都圏での展示会の開催による地場産業製品の普及促進
- 日本遺産を活用した情報発信による観光振興等を通じた地域活性化

②山形の文化を活かしたまちづくり

- 山形駅西口拠点施設の山形の文化・産業の発信機能を活かしたまちづくりの推進【新規】
- 文化財等を保存活用する取組みにより、地域のイメージアップや活性化、新たな交流拡大につなげる「未来に伝える山形の宝」登録制度の推進

VI 文化振興プランの推進

本プランの目標を達成するためには、文化芸術活動の主体である県民・文化芸術団体、文化関連施設、企業、教育機関、県・市町村などの行政機関等文化に関わる多様な主体がそれぞれの役割のもとで連携・協働し、一体となって取り組むことが必要です。

本プランを推進するために、それぞれに求められる役割は次のとおりです。

1 地域の文化活動の主体（県民）

県民は文化芸術活動の主役であり、主体的、積極的に文化芸術に触れ、参加し、創造活動を行うことが望まれます。また、地域の伝統文化を守り、受け継ぐためには、県民の積極的な関わりが必要です。

2 文化芸術団体

文化芸術団体はこれまで地域の文化芸術を担ってきた知識と経験を活かし、文化芸術の振興に寄与し、地域のリーダーとしての活動と実践が望まれます。また、担い手の育成を行い、文化芸術の次世代への継承を行うことが求められます。

3 県・市町村

県は文化振興プランを策定し、施策の展開方向を示すとともに、県民の文化活動基盤の整備や広域的な文化事業を実施します。

市町村は地域住民の身近な文化芸術活動を促進します。地元の身近な文化施設の整備や確保を行い、文化芸術活動機会や鑑賞機会を提供するとともに、地域に残る伝統文化の保護・継承を支援することが求められます。

4 （公財）山形県生涯学習文化財団

（公財）山形県生涯学習文化財団は、県内の文化芸術振興の中核的役割を担い、文化芸術に関する事業の企画やコーディネート、創造性豊かな文化芸術活動への支援など、県民が優れた文化に触れ、参加する機会の創出を行うとともに、アウトリーチ活動など県内全域における事業を実施する役割が求められます。

5 教育機関

教育機関においては、学校教育や課外活動を活用し、若年世代に対し感

性や創造性、情操を涵養するため、鑑賞及び表現などの幅広い活動を通して文化に親しむ機会の創出に取り組むとともに、県民や文化芸術団体と連携して子どもたちが地域の文化活動に参加できる環境を整えることが求められます。

6 文化関連施設

文化関連施設は、優れた文化芸術の鑑賞機会と文化芸術活動参画の機会を提供します。各文化施設間のネットワーク構築による情報や企画の共有など新たな連携を図ることが求められています。また、施設の企画・運営を支える専門人材の育成を行うとともに、地域住民の交流、創造などの文化芸術活動の拠点としての役割を担います。

7 企業等

企業等は文化についての理解と関心を深め、地域の文化活動への積極的な参画や文化イベントの実施など地域の文化芸術活動への支援が期待されます。

【参考】山形県文化振興懇談会委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏名	役職
大谷 駿雄	山形県芸術文化協会会長
大沼 賀世	公益財団法人致道博物館非常勤学芸員
奥山 康夫	山形県高等学校文化連盟会長
小野 寺裕	舟形町地域活性化芸術専門員
加藤 聡	加藤総業株式会社代表取締役社長
加藤 聖	ダンススタジオ「studio BEAT SURF」代表
佐藤 真美	山新観光株式会社営業部次長
角屋 由美子	米沢市上杉博物館学芸員
高橋 菜穂子	山形ガールズ農場代表
津田 隆志	長井市地域おこし協力隊員
長谷川 吉茂	株式会社山形銀行取締役頭取
東山 昭子	鶴岡総合研究所研究顧問
松田 南	新庄市民文化会館舞台技術者
宮本 武典	東北芸術工科大学准教授

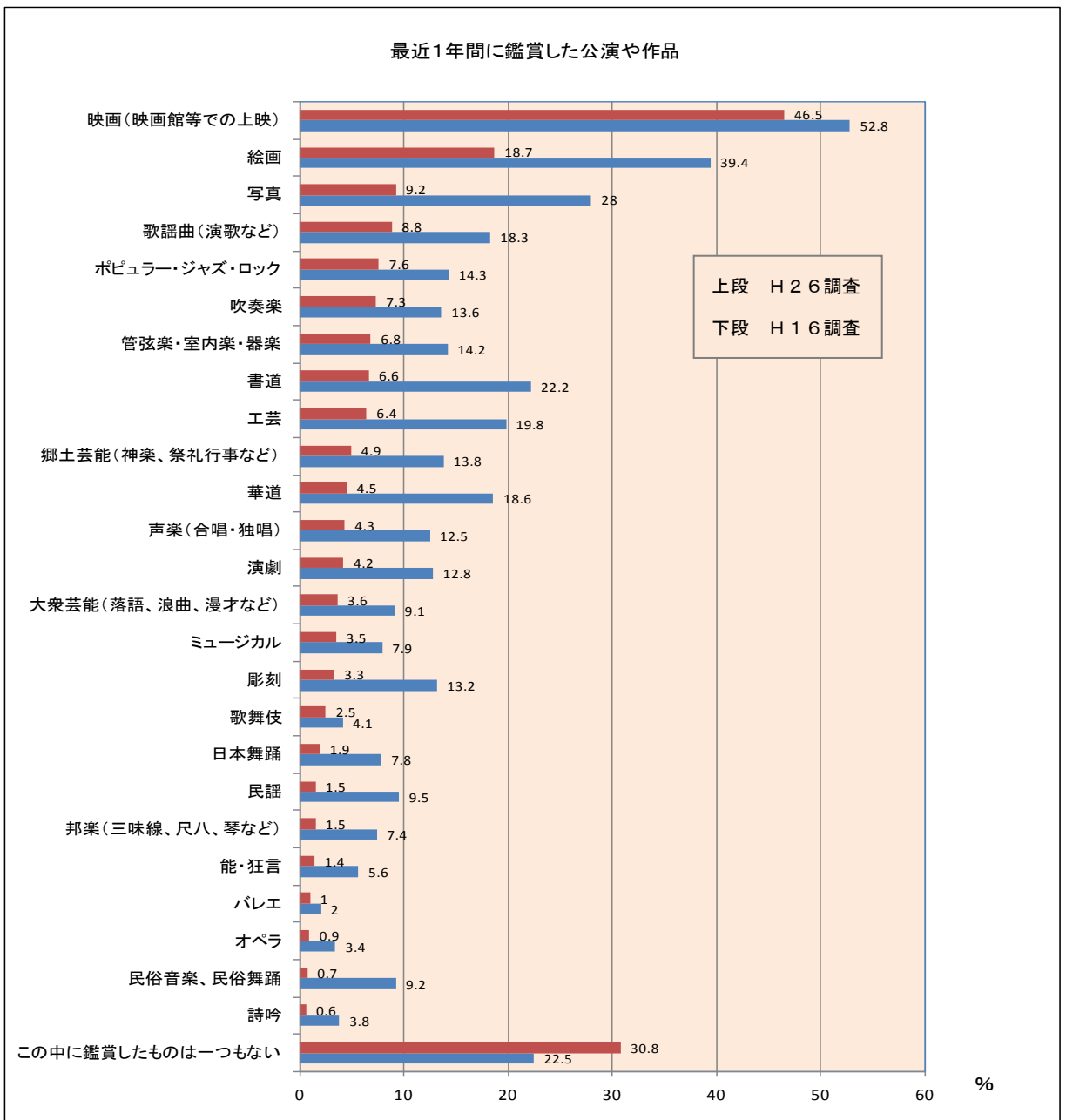
【参考】山形県の文化芸術に対する県民意識

〔平成 26 年度県政アンケート調査の結果〕

(1) 文化芸術の鑑賞について

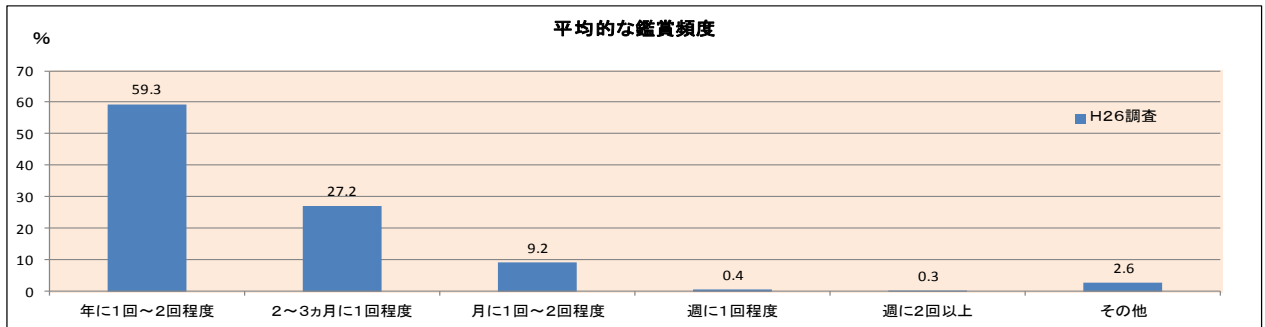
最近 1 年間に鑑賞した公演や作品をたずねたところ、平成 26 年度調査は多い順に「映画（映画館などでの上映）」、「絵画」、「写真」、「歌謡曲（演歌など）」となっている。

平成 26 年度調査を平成 16 年度調査と比較した場合、全ての公演や作品で、鑑賞したと答えた人の割合が減少し、一方「この中に鑑賞したものは一つもない」と答えた人の割合が増加している。



(2) 公演や作品の平均的な鑑賞頻度

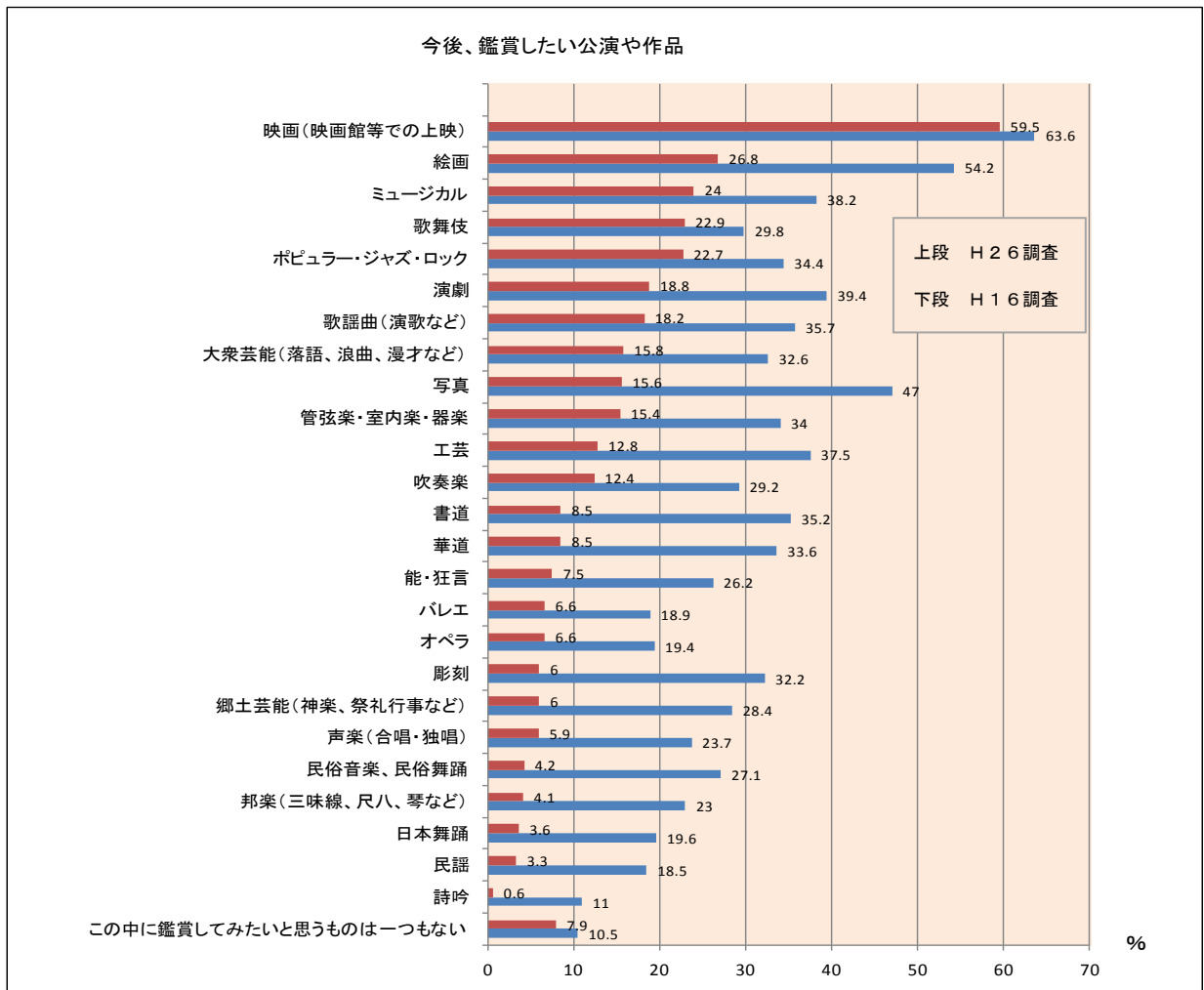
(1)で公演や作品のいずれかについて鑑賞したことがあると回答した人にその鑑賞頻度をたずねたところ、「年に1回～2回程度」が最も多い。(平成16年度調査には項目なし)



(3) 今後、鑑賞してみたいと思う公演や作品

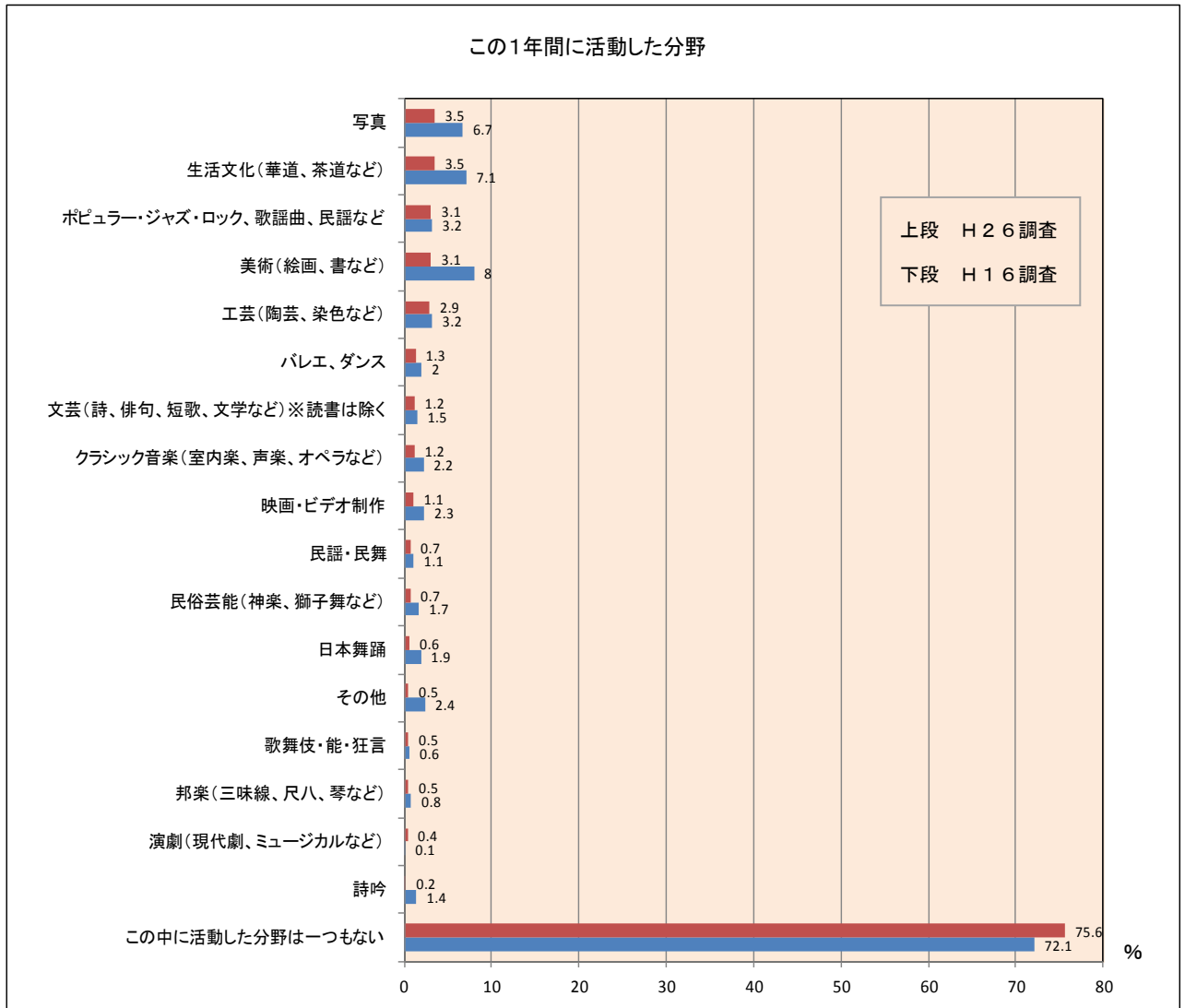
今後、鑑賞してみたい公演や作品についてたずねたところ、平成26年度調査と平成16年度調査では、その高いものの順番に若干の変化がみられる。

なお、「この中に鑑賞してみたいと思うものは一つもない」と答えた人の割合は、いずれの調査においても1割程度となっている。



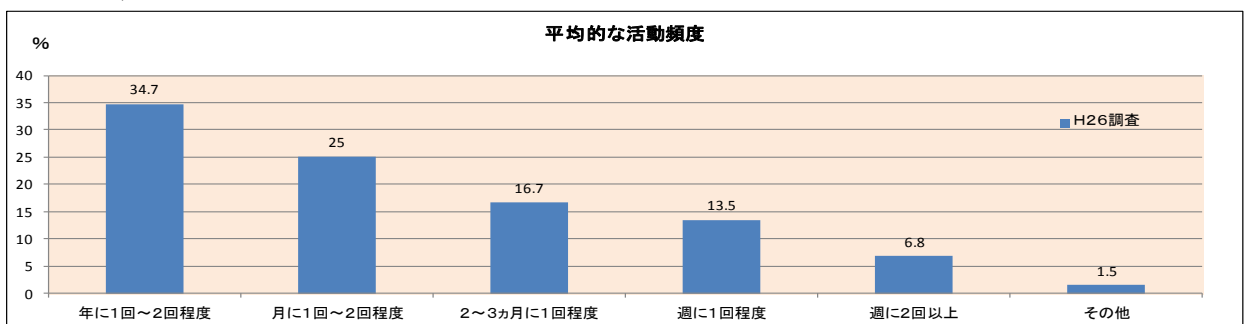
(4) 文化芸術の活動について

最近1年間に活動した文化芸術の分野についてたずねたところ、平成16年度調査、平成26年度調査いずれにおいても「この中に活動した分野は一つもない」の割合が7割を超え最も高くなっている。



(5) 平均的な活動頻度

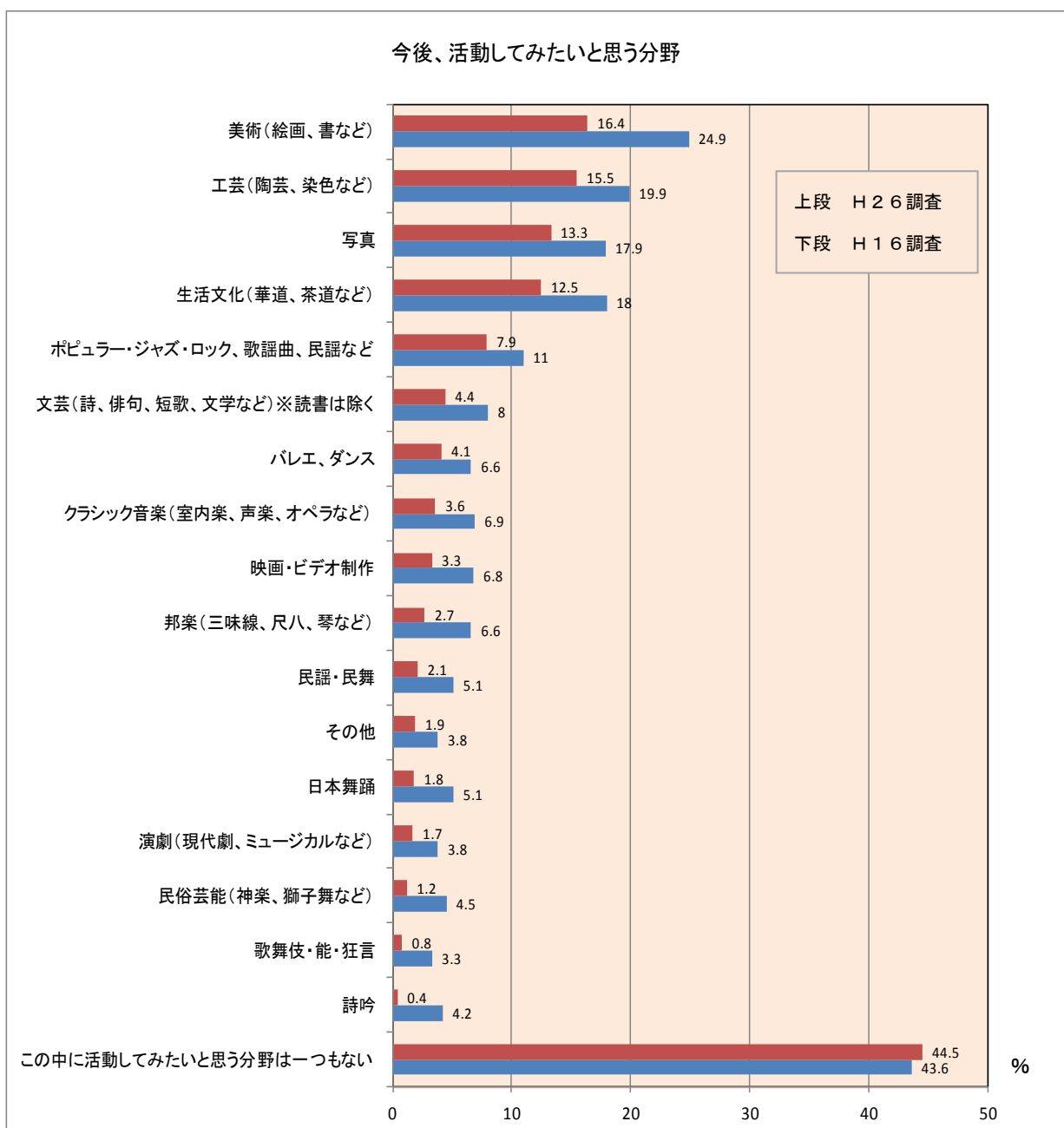
(4)でいずれかについて活動したことがあると回答した人にその活動頻度をたずねたところ、「年に1回～2回程度」が最も多い。(平成16年度調査には項目なし)



(6) 今後、活動してみたいと思う分野

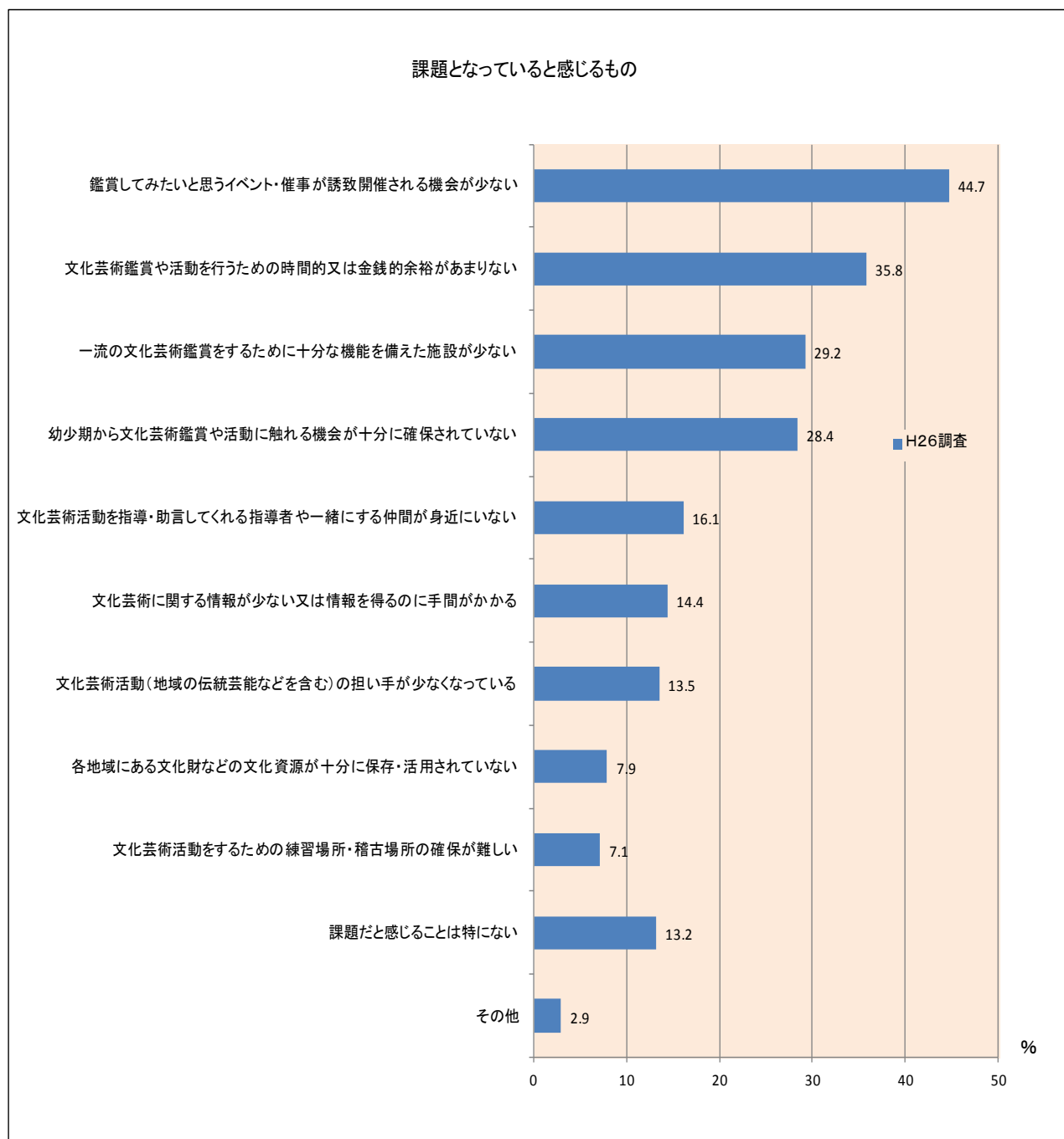
「この中に活動してみたいと思う分野は一つもない」については、平成 26 年度調査と平成 16 年度調査のいずれにおいても約 4 割強となっており、大きな変化は見られない。

なお、平成 26 年度調査における活動してみたい分野については、「美術（絵画・書など）」、「工芸（陶芸・染色など）」、「写真」、「生活文化（華道・茶道など）」の順となっている。



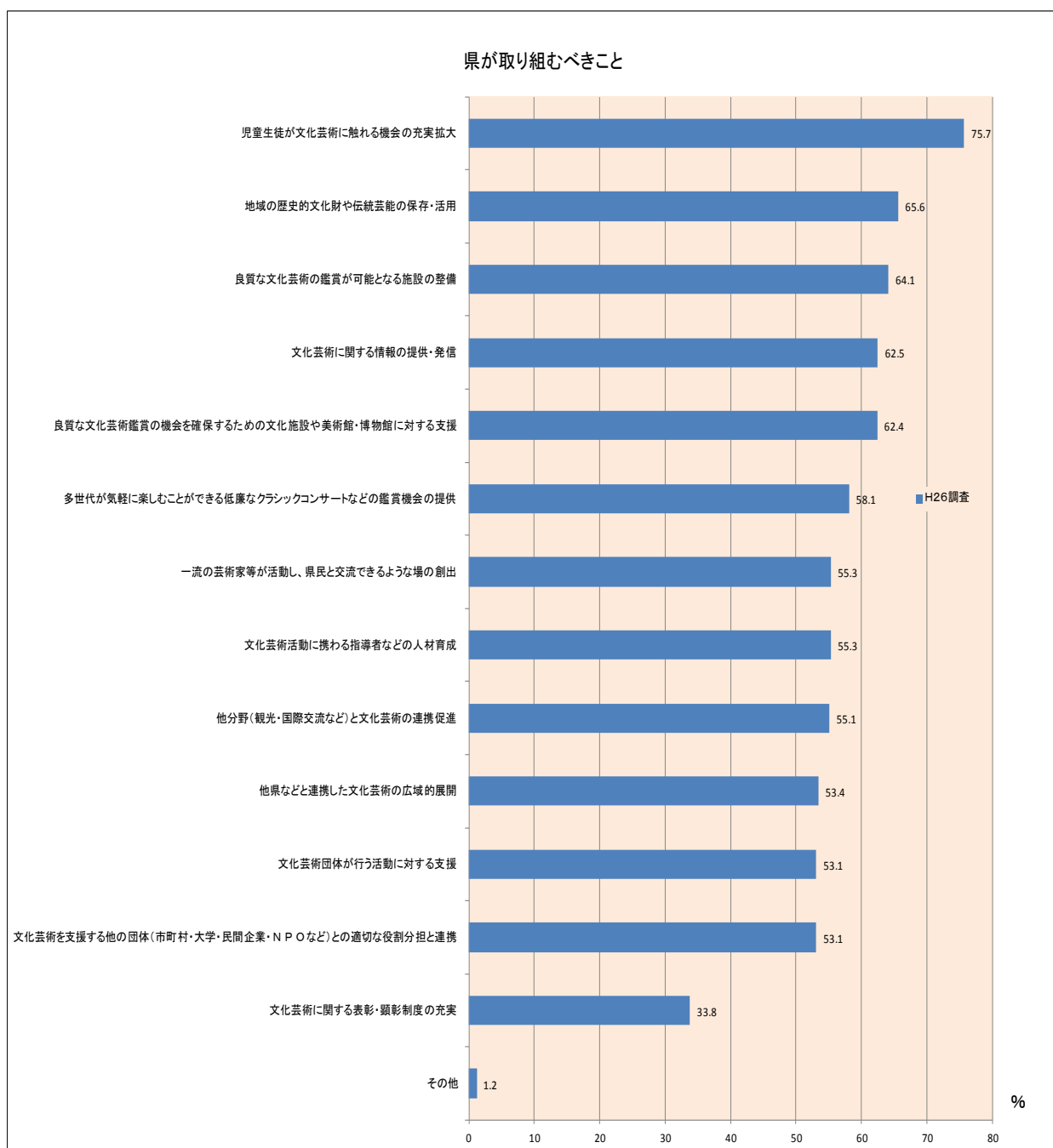
(7) 文化芸術の鑑賞や活動を行う上での課題

文化芸術の鑑賞や活動などを行う上での課題についてたずねたところ、「鑑賞してみたいと思うイベント・催事が誘致・開催される機会が少ない」の割合が最も高く、次いで「文化芸術鑑賞や活動を行うための時間的又は金銭的余裕があまりない」、「一流の文化芸術鑑賞をするために十分な機能を備えた施設が少ない」、「幼少期から文化芸術鑑賞や活動に触れる機会が十分に確保されていない」という順になっている。(平成16年度調査には項目なし)



(8) 文化芸術の振興を図るために県が取り組むべきこと

文化芸術の振興を図るために県が取り組むべきことをたずねたところ、「必要である」と「やや必要である」を合わせた『必要である』は、「児童生徒が文化芸術に触れる機会の充実拡大」の割合が最も高く、次いで「地域の歴史的文化財や伝統芸能の保存・活用」、「良質な文化芸術の鑑賞が可能となる施設の整備」、「文化芸術に関する情報の提供・発信」、「良質な文化芸術鑑賞の機会を確保するための文化施設や美術館・博物館に対する支援」、「多世代が気軽に楽しむことができる低廉なクラシックコンサートなどの鑑賞機会の提供」、「一流の芸術家等が活動し、県民と交流できるような場の創出」、「文化芸術活動に携わる指導者などの人材育成」、「他分野(観光・国際交流など)と文化芸術の連携促進」、「他県などと連携した文化芸術の広域的展開」、「文化芸術団体が行う活動に対する支援」、「文化芸術を支援する他の団体(市町村・大学・民間企業・NPOなど)との適切な役割分担と連携」、「文化芸術に関する表彰・顕彰制度の充実」の順となっている。(平成16年度調査には項目なし)



山形県文化振興プラン

平成 28 年 3 月

編集・発行 山形県
企画振興部県民文化課
〒990-8570 山形市松波二丁目 8 番 1 号
電話(023)630-2903
<http://www.pref.yamagata.jp/>
